

Japan Evangelical Theological Society

日本福音主義神学会

J·E·T·S・ニュース 第3号

発行所 〒651 神戸市中央区中島通2-3-5 神戸ルーテル神学校内



「キリスト者の責任ある思想と行動」

E・フルラー・トリー

高度に近代化された文化においては、科学・技術は次第に自律的となり、文化の生み出す難問題の解決策とみなされ、その影響力を強める。このように文化を統御する手段として位置付けられる科学・技術は、時々とすると政治・経済権力に利用されることになり、さらに世俗化された物質文明の名のもとに「人々の宗教」にすらなる。人間の思想（理論）が偶像視された結果である。

理論と実践

自己矛盾の一原因は誤った「理論」と「実践」の理解にある。キリスト者はその思想と行動において神のみ前での「責任」を問題とするが、世俗の学者は「理論こそ文化の基礎であり、文化を特徴づける」と主張する。

マルクス主義の「社会理論こそが共産主義社会を造りうる」とする主張は良い例である。そして、今日「理論」はますます科学・技術と同一視されるにいたつた。

チャレンジ

合理主義に基づくこのような科学・技術の世界観は、当然「実践」を強調する立場や、自由を求める非合理主義や虚無主義からの反動的チャレンジに遭遇する。最近の五つの例を挙げてみよう。

①実存哲学者ハイデッカーとネオ・マルクス主義者アドルノは、科学・技術の終着点を人間抑圧とみなし、「もの」ではなく人間の「存在」に注目したギリシャ思想に立ち戻ることを提唱する。

②同じくネオ・マルクス主義者ハーバードは、近代科学・技術はむしろ非合理性に陥ったとし、より合理的な理論を主張する。

③対抗文化的な哲学者ロザックは、科学が直線的な進歩を想定する点を批判し、自然のリズムのような循環思考を評価する。

④フランスの哲学者レヴィーは、マ

ルクス主義が教条化し死亡したと判断し、ヒューマニズムとしての新思考を提倡するが、結局それは虚無主義に外ならない。

⑤最後は、今日アメリカの哲学とまでなり、コンピュータ・テクノロジーに支えられたシステム理論の哲学である。世界大の社会をシステム思考により把握できるとする立場で、その最終目標はコンピュータにより、システム倫理、システム宗教を造り出し社会を統御することである。

キリスト者の責任

自己矛盾に陥っている近代文化の中で、キリスト者はその思想と行動においてどのように生きるべきか。

まず、キリスト者は二つの世界觀をしつかり区別しなければならない。

第一はキリスト者が信仰によりそれが神に創られたものと知る世界である。我々が日常的に接するリアルな世界で、そこでの人間の関わりの特徴は具体的、人格的であり、その動機は愛である。第二は科学・技術が想定する人工的、機械的世界であり、そこに愛のない人間の関わりとその関わりの動機としての権力欲が支配する世界である。キリスト者はその思想と行動を通して、第一の世界こそリアルで眞実な世界であると

主張しなければならない。

さらに、第二の世界で活躍するキリスト者の科学・技術者は、神により更新された思考と自由を用い、科学・技術ではなく、むしろ宗教、倫理こそ文化を決定するものであると証しすべきです。神を愛し、人に仕えることこそ、近代科学・技術が築き上げた「バベル文化」への責任あるチャレンジなのです。

(アムステルダム自由大学教授)
(これは東部々会総会での記念講演の要旨です。文責 事務局)

全國理事会報告

●八年度理事会構成
理事長 鍋谷堯爾
副理事長 丸山忠孝
書記 高橋久之
会員編集 橋本龍三
会員編集 山口昇
会員編集 今野孝蔵
会員編集 佐布正義
会員編集 西満

以上のように決った。但し、理事長を次回は、東部より選出する。

- 「学会誌」の発行
- 現在一二号を編集中である。一三号は、合同研究会議の発表論文を載
- 八年度事業計画
- 一、東西合同研究会議を開催する。
- 二、中部地区の育成を援助する。
- 三、国際交流をはかる。
- 四、全国ニュースを発行する。

せて一九八二年春に発行の予定。

●会員名簿の作成
東西会員名簿を合冊として、一九八一年夏に作成する。

●次回、理事会日程について
一九八一年一一月一七日、かんぱー京都において開く。

●東部々会報告◎
一、総会
第十二回総会・シンポジウム・講演会が五月十一日(月)午後一時半より九時まで、お茶の水学生キリスト教会館ホールで開催された。

開会式では宮村武夫氏が説教。

総会では諸報告の後、東部会計予算などが採決された。午後三時からのシンポジウムでは、「医学倫理をめぐって」のテーマで、福音主義医療関係者協議会の御協力により会長の黒住一昌氏(群馬大)と書記の稲葉裕氏(順天堂大)が貴重な発題をされ、神学会から泉田昭氏が代表質問に立った。(総会・シンポジウムの出席者五七名)

夜の講演会では、アムステルダム自由大学教授のスフールマン氏が、有賀寿氏の通訳で「キリスト者の責任ある思想と行動」(本紙一面参照)と題して講演。出席者約八〇名。

二、部門報告

- 教会史部会
五月二二日(金)、お茶の水学生
- 新約部会
六月一二日(金)、お茶の水で開

会館で第一回部会を開催。今後の活動計画と方針について具体的な話し合いがなされた。第一回の研究発表は以下の通りである。

●「帝政ローマにおける密儀宗教との関連から」
内田和彦氏
●「変革期の歴史と福音の力」
滝晶子氏

●「フランス宗教戦争の歴史的脈絡から」
横山武氏

●「教徒主義の流れとの関連から」
丸山忠孝氏

●「歴史的脉絡から」
所お茶の水学生キリスト教会館

●「百人隊長のしもべのいやし」
三〇九号室

●「長谷部秀英(同盟、野沢福音教会牧師)

●「堀肇(伝道福音教団、小針キリスト教会牧師)

●「荒川雅夫(福音伝道教団、前橋基督教牧師)

●「森田聰(准会員より)

●「塙田泰司(伝道福音教団、高田聖書教会牧師)

●「清水武夫(基督長老、多摩川上水教会伝道師)

●「長谷川義信(聖霧キリスト、寒川教会牧師)

●「谷口豊(福音伝道教団、前橋キリスト教会)

●「川教会牧師)

●「津村俊夫氏
次回は、
時一九八一年九月一八日 午後七時九時
所長津田キリスト教会
発表者油井義昭氏の予定

●「新約部会
六月一二日(金)、お茶の水で開

催、研究発表は以下の通りである()
出席者一〇名)

●「二〇世紀における

共観福音書問題の研究」
内田和彦氏

次回は、
時一九八一年九月二五日(金) 午後一時半
所お茶の水学生キリスト教会館

●「帝政ローマにおける密儀宗教との関連から」
内田和彦氏

1981年8月1日

会員の皆様へ
神学会々員としてふさわしい方の
入会をお勧めください。入会申込書
は、書記のもとあります。入会に
は正会員一名の推薦が必要で、理事
会の審査を経て入会を許可すること
になります。正会員の会費は、年間
三千円、準会員は、二千円です。

(書記 大滝信也)

郎、服部嘉明、橋本龍三の三氏の発
題によって活発に論議された。

二、西部々会理事会報告

・一九八一年四月二〇日

一、学会誌の執筆者について話し合
われた。

一、理事会構成について現行理事へ
理事長鍋谷、会計工藤、書記高橋、
統括橋本の各氏)の留任を決めた。

一、学会ニュースの編集担当を引き
継ぎ鍋谷氏に依頼(実務、多久和
氏)することとした。

・一九八一年六月五日

一、研究会議について打合わせた。
一、東西合本の名簿作成を承認した。

一、中部地区、九州地区的活動の強
化について話し合われた。

一、出版基金の委員として西部より
高橋理事を選出した。

一、次回理事会

九月一八日、関西聖書神学校

三、旧約部門活動報告

本年度四月以来左記のように活動
されている。

・四月二七日 京都清和キリスト
教会。「旧約聖書と説教」服部嘉明
氏。共同研究「ハバクク書(第二章)
原典講読に説教の資料を求めて」。

・正木牧人(西日本ルーテル、北
大阪教会)

・田中智恵(改革派甲子園教会)

・吉田暢(近畿ルーテル、桜井
教会牧師)

・杉本智俊(アッセンブリー教団、
御影神愛教会)

・橋本龍三、中島守、松田一男(任期、
一九八三年度まで)

・シンボジウムでは「救済史の問題
について」のテーマで、福音主義神
学誌一号の論文を用いて安田吉三

入会予定者

正会員

・田村幸三(アライアンス教団五
日市教会牧師)

・吉田暢(近畿ルーテル、桜井
教会牧師)

・杉本智俊(アッセンブリー教団、
御影神愛教会)

・正木牧人(西日本ルーテル、北
大阪教会)

・田中智恵(改革派甲子園教会)

・橋本龍三、中島守、松田一男(任期、
一九八三年度まで)

・シンボジウムでは「救済史の問題
について」のテーマで、福音主義神
学誌一号の論文を用いて安田吉三

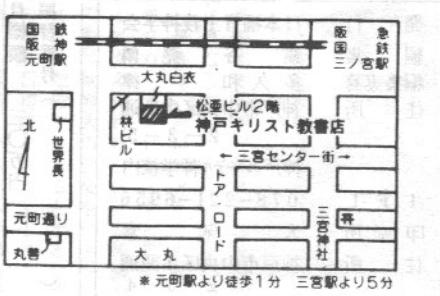
祝 第一回福音主義神学研究会議

- ・和洋 キリスト教神学書
- ・その他、CS用品など豊富に取り揃えております。
皆様のご来店をお待ちしております。

営業時間 (但し日曜・祭日 休)
午前10時~午後6時 (土曜日・4時まで)

〒650 神戸市中央区三宮町3丁目162 松垂ビル2階
TEL (078)331-7569
夜間 592-8285
振替 神戸 45120

神戸キリスト教書店



第一回福音主義神学研究会議

これまで東部、西部の各部会で研究発表が行なわれていたが、今秋、京都で東西合同の第一回福音主義研究会議が開かれる。各氏の積極的なご参加を期待します。

研究発表

4 実践神学
発表者 太田和功一
有賀 喜一

司会 鈴木 英昭
書記 森作 常生

1 聖書神学
発表者 内田 和彦
司会 安田吉三郎
書記 齊藤 篤美

2 歴史神学

発表者 渡辺 千代崎秀雄
司会 片岡 岩本 増永
書記 上沼 昌雄

3 組織神学

発表者 橋本 龍三
司会 小林 和夫
書記 片岡 伸光

4 実践神学

発表者 渡辺 晶子
司会 岩本 助成
書記 上沼 伸光

TEL: (075) 721-1311

市内観光

日本福音主義神学会ニュース

1981年8月1日

16日(月)	17日(火)	18日(水)
	9:00 研究発表(III)	
12:00 受付 14:00	11:00 ボン・ロー氏挨拶 11:30 写真 昼食	
開会式挙行 14:40		市内観光
15:00 研究発表(I)	研究発表(IV) 16:00 全体会 17:00	市内観光
夕食 19:00	夕食 19:00	市内観光
研究発表(II) 21:00	公開講演 (福音自由京都教会)	市内観光

※ 一七日(火)夜七時十八時半の公開講演会は、小川国光師(OM F.田)インドネシア派遣宣教師)がご奉仕くださいます。

申込み先
京都府北区小山東大野町三三ノ二
福音自由京都教会
高橋久之宛
TEL 075(433)1324

至急お申込み下さい。

振替番号	目標額 三〇万円
お 願 い	
三〇〇Km以遠の参加者に一律五、〇〇〇円の交通費を援助するため左記の目標額の献金を募っています。	
皆様のご協力をお願ひいたします。	

神学校ニュース第三号をお届けします。今号はスフレルマン博士の講演要旨を東部々会からいただいてトッピ記事としました。多久和律氏の奉仕による編集ですが、さらに良いニュースにしてゆきたいと願っていますので、御意見、ニュースなどお送り下さい。第四号は、研究会議の直後に予定しております。

本年の神学会の活動の中心はなん

発行	日本福音主義神学会
編集	鍋谷 堯爾 多久和 律
編集実務	神戸市中央区中島通 2-3-5
住 所	神戸ルーテル神学校内
TEL	078-221-6956
印 刷 所	大氣堂
住 所	神戸市中央区多聞通 2-6-4

といつても十一月一六日一八日の京都かんばーるにおける第一回全国研究会議です。この会議がただ学問的成果だけでなく、日本における主のからだなる教会の発展と、主の栄光に役立たせられるよう、参加される方も、できない方もお祈り下さい。「日本宣教の神学的再考」という大テーマが十分に消化されますように。「二一世紀の宣教論を聖靈の導きによってさぐることができますように。皆様の牧会、伝道、神学すべてのわざを主が祝福されますからに。」